

エナガによるシジュウカラの巣への給餌例

松田道生

〒170 東京都豊島区駒込1-3-4-502

エナガ *Aegithalos caudatus* によるシジュウカラ *Parus major* の巣への給餌例は、山口県宇部市において生田 (1989) によりはじめて報告された。その後、長野県菅平高原において小岩井 (1992) によりVTRに記録された。また、以手 (1993) と弥吉 (1994) によって、2年続けて山梨県河口湖の同じホテルの敷地内で行なわれた例が報告され、VTRに記録されている。筆者は、栃木県日光市において、4羽のエナガが給餌を行なっているのを観察したので報告する。

エナガのシジュウカラの巣への給餌は、1996年6月5、6日に観察された。2日間の観察時間は合計3時間30分である。観察場所は、栃木県日光市所野の霧降別荘地で、標高約900m。周囲の林相は、カラマツ *Larix lepbolis* が優占し、シラカバ *Betula platyphyla*、ツツジ類 *Rhododendron* sp. などもある林の中に別荘が点在している。周辺には、スギ *Cryptomeria japonica* 林があり溪流がある。

観察したシジュウカラの巣は、別荘地内の道路際にある電柱を支えるワイヤーをカバーしている黄色のビニールチューブの中にあった (図1)。1996年6月5日にエナガがこのチューブ内に入るのを観察し、その後、シジュウカラが入るのを観察した。そのため、ビニールチューブの中のヒナを確認したところ、巣内には、頭の黒い巣立ち間近のシジュウカラのヒナ5羽がみえ、これによりシジュウカラの巣であることを確認した。

シジュウカラの巣に食物を運ぶエナガの個体数は複数羽であり、入れかわり立ちかわりやってきた。6月5日に筆者が巣内を確認した際には、4羽のエナガが「ジュリリ、ジュリリ」



図1. エナガのシジュウカラのヒナへの給餌がみられた巣

1997年1月10日 受理

キーワード：エナガ、シジュウカラ、種間給餌

と鳴きながらすぐ近くまでやってきて警戒した。また、翌日も同様に4羽のエナガを一度に観察することができたので、給餌に訪れるエナガの個体数は4羽と考えられた。

シジュウカラは雌雄が給餌に飛来し、雌の方が給餌にくることが多かった。また、近くでシジュウカラのさえずりがさかんに聞かれた。

シジュウカラとエナガの給餌の頻度は、エナガの方が個体数が多いだけに多かった。エナガは、巣をのぞくだけのものもいたが、口に虫をくわえてきて中に入るものもいた。エナガが入ったときにも、シジュウカラが巣に入ったときと同様に、ヒナ特有の食物をねだる声が出た。

多くの場合、エナガが一度に4羽で飛来し、順番を待って巣の中へはいった。このようなときは、入り口で2羽が並ぶこともあった(図2)。また、食物を持たずに巣の入り口にしばらくとまって、飛去するものもいた。エナガは、この4羽が1つの群れとして行動していることが多かった。

シジュウカラは、エナガが巣の近くに飛来した程度では追い払わなかった。しかし、巣の入り口に一緒にとまったときには追い払った。エナガが巣の中に入っているときにシジュウカラが入って、すぐにエナガが飛び出てきたこともあった。また、エナガはシジュウカラが巣の中に入っている時は、シジュウカラがいなくなるのを巣の近くで待ってから巣の中に入った。このように、給餌はシジュウカラが優先していた。

シジュウカラの持ってくるものはチョウ目の幼虫、ガの成虫など比較的大きなものが多かった(図3)。エナガが持ってくるものは種不明の茶色い小さなものが多かった。

1996年6月11日の9:00から9:30に再度、同所に訪れたところ、あたりにはシジュウカラもエナガもおらず、巣をのぞくとシジュウカラのヒナ2羽の死体が腐敗し、ハエがたかっていた。また、腐敗臭もかなりしていた。3羽は巣立ち、2羽が死亡したと考えられた。

なお、周辺を探したが巣立ちヒナも、エナガの群れも確認することはできなかった。また、周辺ではシジュウカラのさえずりは聞かれなかった。

シジュウカラの巣へのエナガの給餌例の報告は、本件を含め5例あるにすぎない。エナガ



図2. 巣に飛来したエナガ

にヘルパーがあること、ヘルパーの出現率が高いこと、育雛中盤以降に現れることなどがすでに報告されている（山岸 1986）。また、給餌を行なうヘルパーが複数羽参加した例は、繁殖期末期が多いとのことである（中村登流 私信）。

シジュウカラへのエナガの給餌は、まだ5例に過ぎないが、生田（1989）と弥吉（1994）は5月、小岩井（1992）、以手（1993）と本件は6月である。本件を含め、どの報告例もエナガの繁殖期中期から後期にあたる共通点がある。また、給餌に訪れるエナガは、生田（1989）、小岩井（1992）が2羽、以手（1993）が3羽、弥吉（1994）は少なくとも2羽、本件は4羽と他件に比べ多いが、いずれも複数羽である。これらのことから、エナガがシジュウカラに給餌するのはエナガにヘルパー行動があることとなんらかの関係があり、それは繁殖を失敗した個体、あるいは終了した個体の給餌衝動の代替行動と思われる。

また、エナガが給餌をすることにより、シジュウカラのヒナの生存率は高まるはずだが、生田（1989）では7羽のヒナの内、2羽が死亡、以手（1993）は、10羽の内2羽死亡、弥吉（1994）は不明、本件は、5羽の内2羽が死亡している。したがって、エナガがヘルパーについたことにより繁殖成功率が上がるかどうかは明らかではない。

謝 辞

当報告にあたり、元上越大学教授の中村登流博士からは、文献を教えていただくとともに、本件のエナガが成鳥であることなどを教えていただいた。樋口行雄氏からは助言と資料の提供を受けた。弥吉哲男氏には、以手（1993）における詳しい状況を教えていただいた。論文作成にあたっては、立教大学の上田恵介博士の助言をいただいた。各氏にあつくお礼申し上げる。

引用文献

- 小岩井彰. 1992. シジュウカラとエナガの共同繁殖について. 1992年度日本鳥学会大会講演要旨集: 114.
- 以手 巣守務. 1993. シジュウカラの巣箱にエナガのヘルパー. 私たちの自然 (383): 19-21.
- 生田実. 1989. シジュウカラとエナガの共同育雛. Strix 8: 282-283.



図3. 巣に飛来したシジュウカラ

- 山岸哲. 1986. 鳥類の共同繁殖システムの起源. 鳥類の繁殖戦略 (下). pp. 88-126. 東海大学出版会, 東京.
- 弥吉哲男. 1994. ヘルパー二題. 私たちの自然 (397): 14-17.

Feeding of Great Tit chicks by Long-tailed Tits

Michio Matsuda

Komagome 1-3-4-502, Toshima-ku, Tokyo

I observed four Long-tailed Tits *Aegithalos caudatus* bringing food to a Great Tit's *Parus major* nest in a resort-cottage area of Tokorono, Nikko-city, Tochigi Prefecture. The observations were made on 5, 6, and 11 of June 1996. This is the fifth time that interspecific feeding behavior has been observed in Japan.

Key words: *Aegithalos caudatus*, *interspecific feeding*, *Parus major*